

「第44回全国大学生協共済セミナー」を開催しました — 全国から、前回は上回る780名以上の大学生・生協職員が参加

コープ共済連（日本コープ共済生活協同組合連合会、代表理事理事長：笹川 博子）は、2026年8月20日～22日の3日間、奈良県コンベンションセンターにて「第44回 全国大学生協共済セミナー」を開催しました。全国の大学生・生協職員が一堂に会する本セミナーの参加総数は、大学生協・地域生協・その他参加者の合計で782名となりました。今年度は、開催テーマを『協同をもとに“わたしたちの共済”を広げ組合員の健康で安全な大学生活へ』とし、大学生協共済の理念や役割、組合員の健康で安全な大学生活を支える活動について学び合いました。

■全国大学生協共済セミナーとは

全国大学生協共済セミナーは、全国の学生委員と生協職員が実行委員会を構成し、学生主体で企画・運営する全国規模の学習・交流の場です。参加者が各大学の取り組みや経験を共有しながら、大学生協共済の魅力を実感し、他大学の事例等を自大学へ持ち帰って今後の活動に繋げることを目的として毎年開催しています。

■開催概要

- (1) 開催日程 2026年8月20日(木)～22日(土)
- (2) 開催場所 奈良県コンベンションセンター
- (3) 参加者数 大学生協：135生協 + 7ブロック 712名
(134生協 + 7ブロック 604名)
地域生協：6生協 7名（6生協 6名）
見学者・事務局・コープ共済連含む 参加者合計：782名（676名）



※（ ）は昨年実績

- (4) 開催テーマ

『協同をもとに“わたしたちの共済”を広げ組合員の健康で安全な大学生活へ』

■学びの流れ

企画①：たすけあいの想いに触れる ～共済のこれまでとこれから～	企画②：「声」と「参加」について ～協同から共済活動を広げる～	企画③：4本柱＊を軸にした共済活動
------------------------------------	------------------------------------	-------------------

＊「4本柱」…大学生協の共済活動においては、『加入・給付・報告・予防』の“共済活動の4本柱”に基づき、安全な学生生活のため、学生自身が様々な取り組みを行っています。給付＝共済金のお支払いを指します。

大学生協共済キャラクター「タヌロー」



企画①「魅力発見！夢につながる共済の旅！ ～ここから拡がるたすけあいの輪～」

「大学生協共済に込められた思い・背景から魅力を実感し、言語化できるようになる。」という獲得目標達成のため、大学生協共済が生まれた背景や込められた思いに触れ、基礎知識や魅力を学ぶことで自分事に落とし込みました。

「共済っていいな」を各々が実感し、自身の言葉で大学生協共済の魅力を語れるようになり、「周りに伝えたい」「組合員に拡げたい」といった思いを持ち帰り、自大学で活動していただくための企画でした。



企画②「大学生協共済 今昔物語 ～受け継ぐバトン、協同で拡げるわたしたちの共済～」

「大学生協共済が“声”と“参加”から発展してきたことを理解し、“わたしたちの共済”として協同しながら拡げるイメージを持つ。」という獲得目標達成のため、企画①で学んだ大学生協共済そのものの基礎や魅力を基に、企画②では本制度や活動が「声と参加」で発展してきたことを学びました。

参加者は今もこれからも“わたしたちの共済”として発展していくものということを学ぶ機会となり、「協同」についてさらに理解を深めました。



企画③「ひろげる、その先へ。～4本柱をつなぎ、自大学の一步へ～」

「継続的な4本柱を軸にした共済活動によって組合員の健康で安全な大学生活を支えられることを理解し、今後の活動を考えられるようになる。」という獲得目標達成のため、企画②で学んだ自大学の現状・組合員の声と参加を基に取り組みを行うことの大切さや、大学生協内外の組織との協同の可能性を各グループで考えました。これらを踏まえた上で、企画③では実際に共済活動を拡げていくために、まずは各大学の現状を振り返り

「継続的な4本柱の活動とは何か」を考えるための企画でした。

また、具体的に自大学のメンバーと会話するアウトプットの時間を設け、本セミナー終了後の活動の解像度を上げるために全体発表やチャート作成等を実施し、「実際に自大学で何を行うか」「具体的に今後どのような一歩を踏み出すか」をメンバー同士で議論し、共通認識としました。



パネルディスカッション：「共済があったからこそ、学業を継続できた」

愛知県公立大学生協学生委員、宮崎大学生協学生委員、奈良教育大学生協職員が登壇し、実際に給付（共済金のお支払い）を受けた方の体験談としての事例共有、「病気やケガで大変かつ不安な中、《学生総合共済》があったからこそ学業が継続できた」といった報告を受け、共済の必要性や意義・役割についてディスカッションを行いました。

パネルディスカッションを通じて、参加者は「共済の重要性」や「拡げる活動の必要性」を強く感じ、学びを深め、共済を“自分事”として考えるきっかけとなりました。

名物企画「共済ボードコンテスト」

各大学生協で作成された共済ボード*を持ち寄り、込められた想いや創意工夫を学び合う機会とするため、毎年コンテストを実施しています。“「たすけあい」がより実感できる／思わず見てしまう”共済ボードを掲示することで、全国の大学生協の仲間と制作物を学び合い、高め合うことを目的としています。また、参加者の投票により選出された大学生協をセミナー中に表彰しました。

*共済金のお支払い事例などを見やすくまとめた掲示物。



今年度の共済ボードコンテストでは、愛知教育大学生協が大賞を受賞し、一昨年・昨年に続き3連覇達成となりました。

参加者アンケートより

セミナー参加前は「加入率を伸ばす取り組みを学びたい」という気持ちが強かったが、次第に「共済が大学生活に根付くためにはどうしたら良いか？」という視点に変わっていきました。

視野を広げてもらうセミナーになったので、これからは新学期だけでなく、日常活動にももっと取り組んでいきます。

(関西北陸ブロック 生協職員)

楽しく3日間みっちりと学びました。共済の学習をただではわからない共済の魅力、また全国規模の大学の取り組みを知り、とてもタメになり、持ち帰りたいことや自大学に落とし込みたいことが多く見つかりました。まだまだ自大学の伸び代があることも自覚できたので、自大学に実施できるやり方で、より良い共済の紹介等の取り組みを行っていききたいと感じました。

(東海ブロック 学生委員)

共済の制度が良いことは説明できても、「他の保険に入っているから必要ないですよね？」と聞かれた時に、なんと答えたら良いか困ることが多かったのですが、今回のセミナーでヒントが掴めたように思います。

自大学の学生委員と、実践に向けて動きたいと思います。

(関西北陸ブロック 生協職員)

■コープ共済連について

コープ共済連はC O・O P共済を取り扱う、主に宅配・店舗事業を行う各地域の生協と、日本生活協同組合連合会（略称：日本生協連）が共同して設立した共済事業を専業とする連合会です。C O・O P共済は「自分たちに必要な保障商品を自分たちで開発し、育てること」を軸に、組合員の皆様の声をもとに商品開発を行い、保障内容をより良く改定してきました。特に子ども、女性の保障分野の加入者が多く、子育て世帯よりご支持いただいています。

プレスリリースに関するお問合せ先

日本コープ共済生活協同組合連合会 渉外・広報部（担当：伊藤・本間）

T E L : 03-6836-1320（平日 10 時～17 時 土日除く）

E-mail : kyosaiinfo@coopkyosai.coop

